６調布北高第１３１５号
令和７年３月２８日
東京都立調布北高等学校　校長　梅原章司

令和６年度　東京都立調布北高等学校学校経営報告

令和６年度の取組目標等に関する自己評価と令和７年度以降の課題とそれに対する改善策

１、学習指導、国際理解教育、理数教育

【目標】「生徒の進路実現を目指した授業」を創造するとともに、「生徒個々の将来を見据えた探究力」を育成する。

【方策】

（１）授業の質をより高め、自ら学ぶ生徒を育てる。

ア　授業の中に生徒間の対話による学びを取り入れる。

イ　生徒の知的好奇心を呼び起こす授業づくりに努める。

ウ　課題・学習方法の複線化に取り組み、多様な生徒の学力向上に寄り添う。

エ　ＩＣＴ機器、一人１台端末を効果的に活用する。

オ　観点別評価についての理解を生徒及び教員共に深める。

（２）授業以外の学習活動（校内予備校、自習室運営など）を活用し、生徒の学力向上を図る。

（３）オンライン英語などを活用したきめ細かい語学指導を実施し、生徒の「使える英語力」を向上させる。

（４）グローバル人材育成に向け、語学研修、海外修学旅行、講演会等を活用した国際理解教育に取り組む。

（５）文理を問わず、生徒の探究心を刺激し、科学的思考力を備えた人材を育成する。そのため、「総合的な探究の時間」では高大接続も活用し、探究学習に力点を置いた指導を行う。

（６）教育活動の中で生徒個々の資質を高められる図書を推薦し生徒の読書率を向上させる。

【取組目標等に関する自己評価】　＊以下（　）内の数字は上記【方策】内の数字と対応しています。

（１）授業改善5観点（ア～オ）を全教員に周知し授業観察後や自己申告面接時に講評を行い授業改善に関する共有を多くの教員と行うことができた。

（２）2年目となる校内予備校では講座の内容や目的を生徒に明確に示したうえで実施できた。自習室の開放時間は前年より短縮したが可能な範囲の中で生徒は十分に活用していた。

（３）2学年のオンライン英会話では年度末のアセスメントテストでは年初からスキルアップが見られた。

（４）語学研修、海外修学旅行、講演会等に加え都立高校生等の海外派遣研修にも参加し、校内で全生徒に対してフィードバックも行えた。留学帰国者の成果発表会や次世代リーダー（13期）の出国前の全校生徒への研究調査協力依頼などもあり、国際理解教育がますます活発化してきている。

（５）放課後ゼミの実施方法の改善で生徒の探究心を刺激できたり電気通信大学、日本大学、東京学芸大学な

どとの高大接続事業では昨年度よりも参加生徒が増加した。
（６）学校行事とリンクした図書の推薦・紹介で生徒の読書率をあげる運営が年間を通じて行えた。

【数値目標とその結果】
◇学習指導に対する生徒肯定割合８７％以上（前年度８５％）　→　今年度は８９％
◇国際理解教育に対する生徒肯定割合８０％以上（前年度７９％）→　今年度は８６％
◇GTECは令和6年度は実施せずで、英検（４技能）全員受検を実施
・１年生：準２級以上取得（前年度１２５名）→今年度は１５２名
・２年生：２級以上取得（前年度名８３）→今年度は１４２名
・３年生：２級以上取得（前年度１３８名）→今年度は１４３名
◇読書未読率３０％以下（前年３１％）　→　今年度は３７％

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】
・授業内で生徒が自ら課題を発見し他者と対話しようとする場面を設定している授業を増やすことが課題であり、改善策として相互授業参観や指名制による授業見学を活用することがあげられる。また教科会を通しての情報共有が改善策として有効である。
・国際理解教育プログラムは十分にある一方で個々のプログラムを実施するだけでなく事前事後の研修を充実させる必要がある点が課題であり、改善策として新設の探究国際部を中心に探究委員会、学年、英語科など役割分担を明確化し進行管理することが大切である。
・探究活動に配分できる予算内容の共有が不足していることが１つの課題であり、また探究国際部や探究委員会などで年間計画の共有をすることで全体像を把握してから開始し、２学期はじめに中間報告会を行い修正しながら探究プログラムを進行していく。

２、生活指導・健康づくり
【目標】「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」を行い、自律した生徒を育成する。
【方策】
（１）高校生としてのけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立する。
ア　全教職員が同じ方向に向いた生活指導にあたる。
イ　特に、社会人としてのマナー、遅刻、ＳＮＳ、自転車通学に関する指導を徹底する。
ウ　望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導を行う。
エ　家庭及びＰＴＡとの連携を図る。
（２）授業及び特別活動など教育活動全体で、社会人としての意識を醸成する。
（３）いじめ、体罰調査のアンケート等を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。
（４）スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実させる。

【取組目標等に関する自己評価】＊以下（　）内の数字は上記【方策】内の数字と対応しています。
（１）年5回の挨拶運動と自転車ヘルメット着用指導を全教員で実施できた。
家庭やPTAと連携しおほむらさき祭文化部門では花火をあげることができた。
常任委員会、制服リサイクル、広報誌作成などを通して年間を通じてPTAと連携できた。
（２）授業をはじめおほむらさき祭などの学校行事、部活動、生徒会や委員会活動等を通じて社会人として

の意識を醸成できた。

（３）年3回のいじめ、体罰調査アンケートの実施、毎週水曜日にコンディションレポートを実施したり、年3回以上の学校いじめ対策委員会の開催など、担任、養護教諭、SC、管理職とで迅速な情報共有ができた。未然防止・早期発見・早期対応に努めることができた。

（４）スクールカウンセラーの全員面談、週1回の教員との情報共有ができた。SSCの活用も行い教育相談機能を充実させることができた。

【数値目標とその結果】

◇年間の学年集会10回以上（前年度１２回）→　今年度は１２回

◇1クラスあたり遅刻ゼロの日数年間７０日以上（前年度６９回）→　今年度は７１回

◇自転車通学等の苦情ゼロの月数１２月（前年度６月）→　今年度は１２月

◇校内美化に対する生徒肯定割合８０％以上（前年度７０％）→　今年度は８０％

◇学校見学者対象アンケートにおける校内美化に対する肯定割合８０％以上（前年度７１％）
　→　今年度は９６％

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】

・様々な生徒指導を全教員で実施することはできているが同じ方向には向いていないことが複数の場面であり、教員間の指導スタンスの差異が生徒や保護者に不信感を与える場面もあったので、実施前には目的や手段を明確化する打合せなどを生活指導部を中心に行うことが必要である。校内ルールの見直しなどは企画調整会議を活用し計画的に協議し決定していく。

３、進路指導

【目標】「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。

【方策】

（１）生徒の成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問などそれぞれの関わり
の中でデータに基づいた励ましの指導を行う。

（２）進路講演会等、これまでの進学指導体制をより一層充実させ、生徒個々が自分の目標設定を適切に行える環境を整える。

【取組目標等に関する自己評価】＊以下（　）内の数字は上記【方策】内の数字と対応しています。

（１）模試分析会での個別データについてはメール等で共有できたので個々の教員が情報共有はできた。また
大学入学共通テストについて他校との比較ができて調布北がおかれている位置を把握できた。

（２）進路指導部年間進路指導計画に基づき進路講演会や新設した年2回の面談週間等を活用し、生徒個々が自分の目標設定を適切に行える環境を整えることができた。

【数値目標とその結果】

◇現役生の大学合格者数

・難関国立四大学２名以上（前年度０名）→　今年度は０名

・国公立大学５０名以上（前年度５０名）→　今年度は３４名
・早慶上理５５名以上の合格者を目指す。（前年度５３名）→　今年度は３９名
◇大学入学共通テスト
・国公立大学受験型の受験者数８０名以上(前年度６１名）→　今年度は５９名
◇長期休業期間の講習３００時間以上（前年度２４０時間）→　今年度は４６９時間

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】
模試分析会を経て各教科が次の授業に分析会での情報を生かし切れていないことが課題である。分析会の時間配分や進行方法の工夫が必要である。全体に向けて一方通行ではなすだけでなく、各教科ごとの分析会の実施というように小集団での情報共有会にして、その後の授業に活用できる会にすることで生徒の学力向上や教員の授業改善にもつながる。進路指導部からの修正原案をベースに改善を進めていく。

４、特別活動
【目標】「生徒全員チーム一丸となった文武両道」を実現する。
【方策】
（１）生徒の自主的・自律的な活動を推進するため、生徒同士が切磋琢磨、成長できる環境を教員が支える。
ア　新入生への部活動参加を奨励する。
イ　体育部門、合唱部門、文化部門を一層充実させ、全校生徒の成就感や達成感を高める。
ウ　教員が生徒会活動･委員会活動を積極的に支援することで､生徒の自主的･自律的な活動を推進する。

【取組目標等に関する自己評価】＊以下（　）内の数字は。上記【方策】内の数字と対応しています。
（１）おほむらさき祭各部門の実行委員会や生徒会を中心に各クラスのリーダーなどが一体となり自主的に活動ができるよう教員は生徒からの相談体制を充実させた。最終的には生徒が成就感や達成感を高める
ことができたことは学校評価アンケート結果からもうかがえる。

【数値目標とその結果】
◇部活動参加率９５%以上（前年度９６．２％）→　今年度は９６．４％
◇学校行事や部活動に対する生徒肯定割合８５％以上（前年度８４％）→　今年度は８６％

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】
・部活動では顧問間の情報共有不足とともに部活動指導員などの外部指導者との連携不足が課題である。学校教育活動の一環であり、あくまで教員が指導員を含む部活動全体を管理する体制を基本とする。
・おほむらさき祭などの行事では生活指導部の負担が大きいことが課題だが、担任や副担任を含む全教員が生徒の自主的な活動を支えるために、役割（負担）の分散化をすることが改善策の１つである。

５、募集・広報
【目標】「調布北の特色・強み」を積極的に発信する。

【方策】
（１）中学生に本校の特色・強みを理解してもらうため、生徒会等の生徒の協力を得た広報活動を実施する。
（２）学校ホームページの更新を適時に実施する。

【取組目標等に関する自己評価】＊以下（　）内の数字は上記【方策】内の数字と対応しています。
（１）生徒主導の学校説明会、生徒が見学の案内をする学校見学会については、中学生とその保護者からの評価も高い。引き続き、生徒たちのアイデアを軸に開催していくことが募集活動の肝である。
（２）学校ホームページの更新内容について、部活動の活動報告に加えて探究活動に関する報告がさらに増えていることで、学校の教育活動の中心となる活動について多くの中学生やその保護者へのアピールができたことは評価できる。

【数値目標とその結果】
◇本校志望者の倍率
・中学校長会進路対策委員会発表志望調査１．５倍以上（前年度１．３１倍）→　今年度は１．３４倍
・推薦選抜出願者倍率２．０倍以上（前年度１．７９倍）→　今年度は１．８５倍
・学力検査出願者倍率１．８倍以上（前年度１．５９倍）→　今年度は１．７２倍
◇ ホームページの更新回数年間１８０回以上→　今年度は１２０回

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】
・学校ホームページの更新回数が減少していることと多くの教員がホームページの更新方法を理解していないことが課題である。利用方法に関する校内研修を実施する必要がある。
・募集対策の１つとして学校情報（特色ある探究活動、部活動、改築情報など）を教員間で共有できていないことが課題の１つであり、校内サーバに（特に募集活動時に活用する）学校情報を集約するフォルダなどを作成し、教員がいつでもアクセスできるようにする。
・外部説明会への参加教員について偏りが少ないように年度当初から各分掌に計画的に人員配分しておくことで負担の軽減を図ることができる。

６、学校経営、組織体制
【目標】「組織的な学校運営体制」を構築する。
【方策】
（１）全教職員の経営参画意識を高め、学校経営上の課題については、横断的に検討する体制を整える。
（２）全教職員での情報共有を進めるため、校内ファイルサーバーを活用し、ペーパーレス化を一層進める。
（３）服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。特に、個人情報に関わる事故や体罰・不適切な指導といった事故を絶対に生じさせない。
（４）前年度踏襲ではなく、日常業務を行う上で、その業務の必要性、有効性について意識しながら業務を進める。
（５）経営企画室による教育活動の支援を進める。
ア　来校者等への丁寧な接遇　　イ　計画的・効率的な予算執行　ウ　行政系職員の視点に立った教育活

動

への提言　　エ　施設設備の定期的安全点検・安全管理及び迅速な修繕の徹底

（６）校舎改築に伴う課題を全教職員で共通理解し、教育活動への支障を最小限にとどめる準備を行う。

【取組目標等に関する自己評価】＊以下（　）内の数字は上記【方策】内の数字と対応しています。

（１）校長のリーダーシップのもとに主幹教諭を中心に課題解決のための体制が整っている。

（２）会議等では完全にペーパーレス化している。

（３）年3回以上の服務事故防止研修実施だけでなく企画調整会議では個別研修を実施し事故はゼロである。

（４）月1回の3教科主任会議では業務精選や日常業務の点検を通して協議結果を学校全体に提案できたことで課題を全教員で共有できた。

（５）上記ア～エについて、特にエについては経営企画室の迅速かつ的確な対応で問題を大きくすることなく教育活動を実施できた。

（６）校舎改築に関して共有できた課題を令和7年度も引継ぎ具体的な準備を進める。

【数値目標とその結果】

◇調布北高校入学満足度に対する生徒肯定割合９３％以上（前年度９１％）→　今年度は９４％

◇教科会の開催回数月１回以上（前年度月１回以上）　　→　今年度は月１回

◇自律経営推進予算のセンター執行率５０％以上（前年度４１％）→　今年度は　４２％

【令和７年度以降の課題とそれに対する改善策】

・現在の教育活動と修繕への対応について、予算編成の時期を中心に議論がなされていることが課題である。改善策として、通年で企画調整会議の中で取り上げることとコスト意識という視点で協議できるように予算額とその支出額などの周知は、経営企画室から定期的に発信する必要がある。

・校舎改築について令和８年度夏以降の教育活動の代替場所のめどが全くついていないことが課題でありPTAや同窓会との連携や他校の事例などの情報収集が必要である。